

ISFJ Inter-university Seminar for the Future of Japan

ISFJ2024 中間発表会 活動報告書

文責：広報部 中原南海

【日時】

2024年9月15日(日)

【会場】

zoom

【参加】

29 大学 48 研究会 120 チーム

【概要】

中間発表会は、各研究会が分科会ごとに分かれてそれぞれの研究成果を発表し、専門家の方々からご意見をいただく催しである。11/30(土)、12/1(日)に開催される政策フォーラムに向け、完成度の高い論文を仕上げていくことを目的としている。発表後には、発表を聞いていた研究会による質問や意見シートの提出、専門家の方によるコンサルティングタイム等、第三者視点からの意見をもらえる時間を設け、最終論文の執筆に向けて疑問点や不安点を解消する機会を設けた。

【企画内容】

各研究会の皆様による20分間の発表を踏まえ、聞き手である残りの研究会の皆様には質疑応答と意見シートを記入する時間を10分間設けた。

研究会1班の発表が終了するごとに、20分間コメンテーターの方と個別に相談するコンサルティングタイムを設け、参加者の皆様が抱えている疑問にお答えいただき、論文や発表の向上に向けたアドバイスをいただいた。

なおコメンテーターの皆様には前もって、参加者の皆様に事前に提出いただいた中間論文を読んでいただき、論文中の論理破綻、事実誤認などの基本構成および発表の不備、論文と発表間の齟齬の有無について確認していただき、忌憚のないご指摘をお願いした。

また、会の最後にはコメンテーターの皆様から総評をいただき、これをもって閉会とした。

● 審査員の形式が3パターン

- ・当日コメンテーター2人
- ・当日コメンテーター1人+事前に読んでコメント
- ・当日コメンテーター1人のみ

当日コメンテーターとして協力してくれる方が少ないことが課題である

【責任者総評】

今回の中間発表会では、発表内容が最終論文に向けてより深まったものとなっており、コメンテーターの方々と有意義な議論が展開されていました。また研究会同士の意見交換や質疑応答も活発に行われ、学生間で互いに高め合うことができたと思います。今後は政策フォーラムにて、皆様がより良い環境で素晴らしい政策提言を発表できるよう運営委員一同、精一杯サポートして参ります。

来年度以降取り入れるべきこと

- ・審査員渉外部の部長、副部長は司会業務を免除し、当日欠席のコメンテーターの対応をする
- ・審査員の渉外時期を早め、十分な数の審査員を用意する
- ・各部署で細かい引き継ぎ書を作成し、今年度の反省を活かす
- ・コメンテーター様から依頼に対して承諾をいただいていたにも関わらず、担当者の確認不足により返信を失念していた。以後ないように気を引き締めて業務に取り組んでもらいたい
- ・コメンテーター様候補の肩書きや御名前を間違えてしまうことがあった。これらは大変失礼なことでもう決してあってはならないことであり、より一層確認作業に気を付ける